

# 継続パターン

トレーダーは絶えず「このトレンドは続くだろうか？」と自問しています。トレンドが続いている途中で、新しい取引を始めるべきかどうか、または現在行っているトレードを終了（エグジット）し、利益を取るかどうかを決めるのは難しいものです。2つの通貨の間の為替相場が反転し、反対方向に動き始めるかどうかを知ることは決してできません。しかし、経験学習による推測を行うことはできるのでしょうか？

継続（保ち合い）パターンは、価格の変動がいつ、短期の調整局面の後でトレンドを再開するかという前もったサインを与え、どの程度この方向に変動しそうかを知らせてくれます。もちろん、継続（保ち合い）パターンは絶対確実ではありませんが、成功する公算を大きくしてくれます。少し時間をかけて、以下の価格の継続（保ち合い）パターンに慣れてください。



# 上昇型トライアングル

トライアングルとは、価格の変動がサポートまたはレジスタンスの水平ラインに達して、次第に値動きの幅が極めて小さい調整局面に入る時に、三角形に囲まれたような形状になる継続（保ち合い）パターンです。トライアングルは、形成され始める前のトレンドがどうであったかに応じて強気または弱気になります。トレンドが、トライアングルが形成され始める前に上向き傾向だった時は、強気の継続パターンです。トレンドが、トライアングルが形成され始める前に下向き傾向だった時は、弱気の継続パターンです。トライアングルは通常、長期にわたって形成されます。



上辺のラインが水平であり、下辺のラインが上昇している三角形のことを指します。もみ合いの中で何度か上値をトライしますが抜け切れず、調整の反落を繰り返しますが反落した際の下値が少しずつ切り上がって、上辺と下辺が交わる直前に、上辺ラインを突破し、上昇トレンドを再開します。

売買のポイントは、三角形の頂点の位置から上昇トレンドを再開する時期（トライアングル水平線の1/2から3/4まで）を割り出し、トレンド再開の兆候（上辺を抜けていく）がみられたら買いサインとみます。

## 上昇型トライアングルのターゲット

上昇型トライアングルのターゲットの計算式は以下のようになります。

$$T = R + H$$

T – ターゲット

R – 抵抗線

H – 支持線と抵抗線との差

# 下降型トライアングル

トライアングルとは、価格の変動がサポートまたはレジスタンスの水平ラインに達して、次第に値動きの幅が極めて小さい調整局面に入る時に、三角形に囲まれたような形状になる継続（保ち合い）パターンです。トライアングルは、形成され始める前のトレンドがどうであったかに応じて強気または弱気になります。トレンドが、トライアングルが形成され始める前に上向き傾向だった時は、強気の継続パターンです。トレンドが、トライアングルが形成され始める前に下向き傾向だった時は、弱気の継続パターンです。トライアングルは通常、長期にわたって形成されます。



下辺のラインが水平であり、上辺のラインは下降している三角形のことを指します。もみ合いの中で何度か下値をトライしますが抜け切れず、調整の反騰を繰り返しますが反騰した際の上値が少しずつ切り下がって、上辺と下辺が交わる直前に、下辺ラインを突破し、下落トレンドを再開します。

売買のポイントは、三角形の頂点の位置から下落トレンドを再開する時期（トライアングル水平線の1/2から3/4まで）を割り出し、トレンド再開の兆候（下辺を抜けていく）がみられたら売りサインとみます。

## 上昇型トライアングルのターゲット

下降型トライアングルのターゲットの計算式は以下のようになります。

$$T = R + H$$

T – ターゲット

R – 抵抗線

H – 支持線と抵抗線との差

# 対称型トライアングル

トライアングルとは、価格の変動がサポートまたはレジスタンスの水平ラインに達して、次第に値動きの幅が極めて小さい調整局面に入る時に、三角形に囲まれたような形状になる継続（保ち合い）パターンです。トライアングルは、形成され始める前のトレンドがどうであったかに応じて強気または弱気になります。トレンドが、トライアングルが形成され始める前に上向き傾向だった時は、強気の継続パターンです。トレンドが、トライアングルが形成され始める前に下向き傾向だった時は、弱気の継続パターンです。トライアングルは通常、長期にわたって形成されます。



下向きの上辺のラインと上向きの下辺のラインで構成されている三角形のことを指します。もみ合いの中で何度か上下動を繰り返し、上値を切り下げ下値を切り上げます。上辺と下辺が交わる直前に上辺または下辺を突破し、トレンドを再開します。売買のポイントは、三角形の頂点の位置からトレンドを再開する時期（トライアングルラインの1/2から3/4まで）を割り出し、トレンドの再開の兆候が見られた場合すなわち上辺を抜けた場合は買いサイン下辺を抜けた場合は売りサインとみます。

売買のポイントは、三角形の頂点の位置からトレンドを再開する時期（トライアングルラインの1/2から3/4まで）を割り出し、トレンドの再開の兆候が見られた場合すなわち上辺を抜けた場合は買いサイン下辺を抜けた場合は売りサインとみます。

## 上昇型トライアングルのターゲット

対称型トライアングルのターゲットの計算式は以下のようです。

上昇トレンドの場合、

$$T = BL + H$$

下落トレンドの場合、

$$T = BL - H$$

$$T = R + H$$

T - ターゲット

R - 抵抗線

H - 支持線と抵抗線との差

# 長方形（上昇）

長方形とは、値動きが、2本の平行線に挟まれたように見えるチャンネルで、優勢なトレンドから後退する時に形成される、長方形のように見える継続（保ち合いの）パターンのことです。長方形は、形成され始める前のトレンドがどうであったかに応じて、強気または弱気になります。

長方形が形成される前に上向き傾向だった時は、強気の継続パターンです。長方形はすべて、次の特性を持っています。

レジスタンスライン - 上向き傾向の長方形

の場合、サポートラインと平行なレジスタンス（反落時の高値）の下向き傾向のライン。または、下向き傾向のフラッグの場合、サポートラインと平行なレジスタンス（反落時の高値）の上向き傾向のライン。

サポートライン - 上向き傾向の長方形の場合、レジスタンスラインと平行なサポート（反落時の安値）の下向き傾向のライン。または、下向き傾向のフラッグの場合、レジスタンスラインと平行なサポート（反落時の安値）の上向き傾向のライン。



## 上昇型トライアングルのターゲット

長方形のターゲットの計算式は以下のようになります。

$$T = R + H,$$

T - ターゲット

R - レジスタンスライン

H - 支持線と抵抗線の間の差

# 長方形（下落）

長方形とは、値動きが、2本の平行線に挟まれたように見えるチャンネルで、優勢なトレンドから後退する時に形成される、長方形のように見える継続（保ち合いの）パターンのことです。長方形は、形成され始める前のトレンドがどうであったかに応じて、強気または弱気になります。

長方形が形成される前に下向き傾向を示していた時は、弱気の継続パターンです。長方形はすべて、次の特性を持っています。

サポートライン - 上向き傾向の長方形の場合、レジスタンスラインと平行なサポート（反落時の安値）の下向き傾向のライン。または、下向き傾向のフラッグの場合、レジスタンスラインと平行なサポート（反落時の安値）の上向き傾向のライン。

レジスタンスライン - 上向き傾向の長方形の場合、サポートラインと平行なレジスタンス（反落時の高値）の下向き傾向のライン。または、下向き傾向のフラッグの場合、サポートラインと平行なレジスタンス（反落時の高値）の上向き傾向のライン。



## 上昇型トライアングルのターゲット

長方形のターゲットの計算式は以下のようになります。

$$T = S - H,$$

T - ターゲット

R - レジスタンスライン

H - 支持線と抵抗線の間差

# フラッグ

フラッグとは、値動きが、2本の平行線に挟まれたように見えるチャンネルで、優勢なトレンドから後退する時に形成される、フラッグのように見える継続（保ち合いの）パターンのことです。

フラッグが形成される前に上向き傾向だった時は、強気の継続パターンです。また、フラッグが形成される前に下向き傾向を示していた時は、弱気の継続パターンです。フラッグは普通、短期間形成されます。



- 上向き傾向のフラッグの場合は、値動きがレジスタンスの下向き傾向のラインの上で上へ折れ曲がる点です。
- または、下向き傾向のフラッグの場合は、サポートの上向き傾向のラインの下で、下へ折れ曲がる点です。

## 上昇型トライアングルのターゲット

下向き傾向のフラッグの場合は、値動きがフラッグ形から抜け出た後で、そこまで下落すると予想される価格。または、上向き傾向のフラッグの場合は、フラッグ形から抜け出た後で、そこまで上昇する予想される価格。株式や証券CFDの価格が動く予測される幅は、フラッグポールの高さに相当します。

下落トレンドの場合

$$T = BP - (TS - PS)$$

上昇トレンドの場合

$$T = BP + (PS - TS)$$

T - ターゲット

BP - ブレークアウトポイント

TS - トレンドスタートポイント

PS - パターン形成ポイント

# ペナント

ペナントとは、価格の変動が次第に値動きの幅が極めて小さい調整局面に入る時に、ポールにくくりつけた旗がたなびいているかのように、三角形に囲まれたような形状になる継続（保ち合いの）パターンのことです。ペナントは、形成され始める前のトレンドがどうであったかに応じて強気または弱気になります。

これまでのトレンドが、ペナントが形成され始める前に上向き傾向だった時は、強気の継続パターンです。また、これまでのトレンドが、ペナントが形成され始める前に下向き傾向だった時は、弱気の継続パターンです。ペナントは通常、短期間形成されます。



上向き傾向のペナントの場合は、レジスタンスの下向き傾向のラインを上抜ける点、

- または下向き傾向のペナントの場合は、サポートの上向き傾向のラインを下抜ける点です。

## 上昇型トライアングルのターゲット

価格予想 - 下向き傾向のペナントの場合は、ペナント形から抜け出た後で、そこまで下落すると予想される価格。または、上向き傾向のペナントの場合は、ペナント形から抜け出た後で、そこまで上昇する予想される価格。

下落トレンドの場合

$$T = BP - (TS - PS)$$

上昇トレンドの場合

$$T = BP + (PS - TS)$$

T - ターゲット

BP - ブレークアウトポイント

TS - トレンドスタートポイント

PS - パターン形成ポイント



# ウェッジ

ウェッジは、株式または証券CFDの価格が、優勢なトレンドから後退して次第に値動きの幅が極めて小さい調整局面に入る時に、くさび型のように見える継続（保ち合い）パターンです。ウェッジは、形成され始める前のトレンドがどうであったかに応じて強気または弱気になります。

株式または証券CFDが、ウェッジが形成され始める前に上向き傾向だった時は、強気の継続パターンです。株式または証券CFDが、ウェッジが形成され始める前に下向き傾向だった時は、弱気の継続パターンです。ウェッジは通常、短期間形成されます。



- 上向き傾向のウェッジの場合、値動きがレジスタンスの下向き傾向のラインの上抜ける点です。
- または、下向き傾向のウェッジの場合、サポートの上向き傾向のラインの下で、下抜ける点です。

## 上昇型トライアングルのターゲット

価格予測 - 下向き傾向のウェッジの場合、値動きがウェッジ形から抜け出た後で、そこまで下落する予想される価格。または、上向き傾向のウェッジの場合、ウェッジ形から抜け出た後でそこまで上昇する予想される価格。

下落トレンドの場合

$$T = BP - (TS - PS)$$

上昇トレンドの場合

$$T = BP + (PS - TS)$$

T - ターゲット

BP - ブレークアウトポイント

TS - トレンドスタートポイント

PS - パターン形成ポイント